文学基礎レポート

B16079　前田剛志

書き換えから見える歴史

私は桜井　画門原作の「亜人」を用いて現代の書き換えから過去の書き換えについての考察を述べようと思う。中でもわかりやすいシーンが一つあるのでそのシーンについて語る。詳しい設定などは書かないが、亜人である佐藤が政府に対して宣戦布告するためにテロを起こすシーンである。どんな表現の違いがあるかというと、原作と実写映画では飛行機をジャックして原作では製薬会社に映画では厚生労働省に突っ込んだ。もちろん乗客は全員死亡。対してアニメではビルに対して爆弾を爆発させてビルを倒壊させた㊟１。なぜこのような書き換えが起こったのかというとそれは9.11を意識したものだと考える。9.11や3.11など深くトラウマを植え付けた事件は表現を自粛される。つまり世の中のタブーは表現として嫌われるということである。それは今の時代だけではないはずである。長い時代愛された源氏物語などの書き加えられた部分を見ればその時代の流行りがわかり、その時代に消されてしまったエピソードを調べればその時代のタブーなどがわかると考察する。

参考文献

㊟1.桜井　画門/「亜人 ４」講談社